

# 研修会内容(平成23年度)

## ○会員研修プログラム

開催自治体:石川県輪島市 文化会館 会議室

ー1月12日 1日目

1. 基調講演 「東日本大震災時の岩手県釜石市の災害対応」  
前岩手県釜石市副市長 佐々木 重雄 氏
2. 報告事項 「東日本大震災時の建物被害認定調査の総括」  
富士常葉大学社会環境学部・環境防災学部  
教授 田中 聡 氏
3. ワークショップ 「東日本大震災の教訓から見た地域防災計画の見直し点」  
進行 富士常葉大学社会環境学部・環境防災学部  
教授 重川 希志依 氏

ー1月13日 2日目(公開プログラム)ー

4. 基調講演 「東日本大震災から300日 陸前高田市の被災者は今」  
名城大学 都市情報学部 准教授 柄谷 友香 氏
5. パネルディスカッション  
テーマ 「被災者の暮らしの再建に向けて」  
パネリスト 前岩手県釜石市副市長 佐々木 重雄 氏  
宮城県気仙沼市消防団分団長 村上 貴敏 氏  
福島県南相馬市原町区下渋佐地区区長 平 隆男 氏  
石川県輪島市門前町諸岡地区区長会長 泉 靖郎 氏  
パネリスト・コメンテーター  
名城大学都市情報学部 准教授 柄谷 友香 氏  
コーディネーター  
富士常葉大学社会環境学部・環境防災学部 田中 聡 氏

参加者数

- ・1日目:22団体31名  
(内、非会員自治体7団体11名)  
※上記の他輪島市職員40名が参加
- ・2日目:17団体22名  
(内、非会員自治体2団体2名)  
輪島市民 88名



開会の挨拶をする丸山会長



歓迎の挨拶をする梶輪島市長

# 1. 基調講演

■「東日本大震災時の岩手県釜石市の災害対応」

■講師：前岩手県釜石市副市長

佐々木 重雄 氏

平成23年3月11日発生した、東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県釜石市の対応と防災対策等について、地震発生から津波到来までの情報伝達・発災（津波到来）後の市の対応（混乱期・収集期・回復期の各対応状況）・地域防災計画及び各種マニュアルは機能したか（課題と見直し点等）、「釜石の奇跡」を生んだ釜石市の防災教育について講演いただいた。



# 2. 報告事項

## ■ 「東日本大震災時の建物被害認定調査の総括」

■ 講師：富士常葉大学社会環境学部・環境防災学部

教授 田中 聡 氏

東日本大震災の被災自治体が行った建物被害認定調査で浮き彫りとなった課題の中で、特に問題視された、被害認定調査の遅延、調査の公平性・自治体間の調査方法の相違等について実態を報告いただいた後、それらの問題点を解決するために平常時に取り組むべきこととして、被害認定調査のノウハウを習得するためのトレーニング方法についてご教示いただいた。



# 3. ワークショップ

## ■「東日本大震災の教訓から見た地域防災計画の見直し点」

■講師：進行 富士常葉大学社会環境学部・環境防災学部

教授 重川 希志依 氏

東日本大震災では地震・津波等により甚大な人的・物的被害が発生したため、これまでの防災・減災のための対策や体制を見直し、再構築する必要があることから、各自治体には地域防災計画の見直しが求められている。

今回のワークショップは、現在各自治体が抱えている地域防災見直しに係る問題点を出し合い、グループの中で意見を構造化し、さらには各班の問題点を共有する中で、今後の地域防災計画見直しの参考とすることを目的として開催した。



〔進行する重川教授〕



〔グループ討議の結果を報告する参加者〕



〔熱心にグループ討議を行う参加者〕



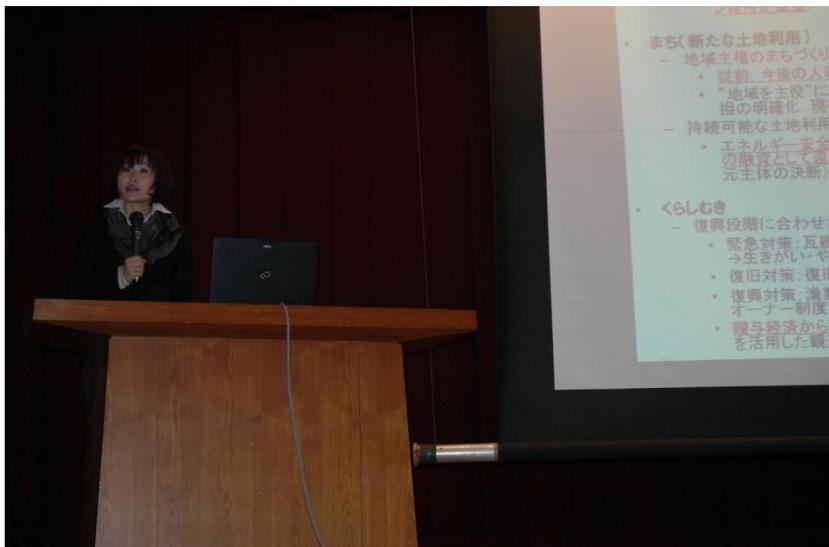
〔講評する谷井小千谷市長〕

# 4. 基調講演

■ 「東日本大震災から300日 陸前高田市の被災者は今」

■ 講師：名城大学 都市情報学部 准教授 柄谷 友香 氏

東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市に滞在し、避難所の頃から被災者の方々と生活を共にし、被災地区コミュニティとの協働を通じた被災者生活再建について調査研究を行った中で見えた、実態と課題について講演いただいた。



# 5. パネルディスカッション

## ■ パネルディスカッション

「被災者の暮らしの再建に向けて」

パネリスト

前岩手県釜石市副市長

佐々木 重雄 氏

宮城県気仙沼市消防団分団長

村上 貴敏 氏

福島県南相馬市原町区下渋佐地区区長

平 隆男 氏

石川県輪島市門前町諸岡地区区長会長

泉 靖郎 氏

パネリスト・コメンテーター

名城大学都市情報学部 准教授

柄谷 友香 氏

コーディネーター

富士常葉大学社会環境学部・環境防災学部

田中 聡 氏

東日本大震災の被災地で行政、被災者、支援者等それぞれの立場で復興に向けて歩みを進めている中で、今後本当の意味での生活再建に向け、被災者や行政が何をすべきで何が必要なのか、東日本大震災被災地の現状と課題を出し合い、能登半島地震での経験を参考に、より良い暮らしの再建に向けた方向性を見出すことをテーマとしてパネルディスカッションを開催した。



[パネルディスカッションの様子]



[東日本大震災の経験を話す平隆男氏]



[熱心に聞く大勢の参加者]